



政府統計

報道関係者 各位

平成 30 年 5 月 30 日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室
縦断調査管理官 後藤 敬一郎
室長補佐 川津 雄志 (内線 7473)
室長補佐 柏木 貴久子 (内線 7494)
(担当) 出生児縦断統計業務係 (内線 7566)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(3595)2321

第 7 回 21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）の結果

厚生労働省では、このたび、同じ集団を対象に毎年実施している「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」の第 7 回（平成 29 年）の結果を取りまとめましたので、公表します。

21 世紀出生児縦断調査は、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査と平成 22 年に出生した子の比較対照等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査時点での子どもの年齢は、7 歳（小学 1 年生）です。

【調査結果のポイント】

1 母の就業状況の変化

- ・母が有職の割合は第 7 回調査（小学 1 年生）で 67.2%となり、平成 13 年出生児（第 7 回）の 55.8%に比べて 11.4 ポイント高い (3 頁 図 1)
- ・出産 1 年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第 1 回調査から第 7 回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成 22 年出生児では 40.7%で、平成 13 年出生児の 28.9%に比べて 11.8 ポイント高い (4 頁 図 2)

2 子どもの生活の状況

放課後に過ごす場所は、「学童保育」の割合が 38.6%と、平成 13 年出生児（第 7 回）の 25.7%に比べて 12.9 ポイント高い (6 頁 図 4)

3 子育ての意識等

(1) 子どもがいてよかったと思うこと

平成 13 年出生児に比べて、割合が最も上昇したのは「子どもの将来が楽しみ」の 12.2 ポイント、次いで「子どもの成長によるこびを感じる」の 9.9 ポイント (7 頁 図 5-2)

(2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み

平成 13 年出生児に比べて、割合が最も上昇したのは「子育てによる身体の疲れが大きい」の 9.4 ポイント、次いで「自分の自由な時間が持てない」の 6.2 ポイント (8 頁 図 6-2)

調査結果の詳細は、別添概況をご覧ください。